

# みんなちがってみんないい

## R2その(6) 指導教諭 木村 栄

今回は「発達性協調運動症」についてお話します。これも昨年お話ししましたが、「不器用」な人の中に「発達性協調運動症」の方がいます。2つ以上の動きを組み合わせることを協調運動と言いますが、これがスムーズにいかない人がいます。学校の学習場面で例えると、「定規やコンパスなどがうまく使えない」「リコーダーが…」「字が…」「体育が…」「色塗りが…」など、思い当たることはありませんか？

生活の場面でも、「靴紐がうまく結べない」「食べこぼしてしまう」など、協調運動が必要な動作は数え切れないほどあります。

大人でも「料理が苦手…」「パソコンのタイピングが…」など、仕事に必要な技能が身に付きにくいために仕事上のミスが多くなりがちです。

どの動きも、実は複雑な運動を組み合わせで行っています。視覚・聴覚・触覚・平衡感覚、筋肉や骨の使い方、距離感など様々なセンサーをうまく調節し、一瞬で丁度良い状態で動かすことで、人の動きは成立しています。

このように協調運動がうまくできないことを、「発達性協調運動症」と言います。

これは脳の中枢神経系の機能障害によって起こると推測されていて、発生率は5%~6%程と言われています。また、これまで話してきました、他の発達障がいと重複していることが多いことも良く知られています。

ちょっと不器用で、日常生活や学習に大きな支障が無ければ良いのですが、発達性協調運動症の場合「練習不足・努力不足」と誤解され、無理に練習を強いられていることがあります。その結果、劣等感や疎外感が生まれてしまいます。

成人の場合、仕事でミスが続いたり、家事が上手く行かなかつたりとすることで、抑うつや不安・緊張が発現しやすくなります。

発達性協調運動症は練習を繰り返すことで完全に解消されることはありません。それよりも、先に述べたように劣等感や疎外感を生む可能性が高まります。

発達性協調運動症の改善には、子供が抱える苦手さの原因を分析し、一人一人に合った動きの練習や、課題や教材・道具の工夫によって、苦手さ困難さを軽減することが大切です。

このような練習を行う場が療育であり、本校では通級指導教室で行っています。

療育や通級指導を受けたからと言って、すぐに改善できるわけではありません。スモールステップで、少しずつ特性を改善していきます。何よりも、楽しく行わなければ能力の改善は期待できません。

そして一番大切なことは、自分の苦手さ・特性を知り、どうすれば困り感を軽減できるかを学ぶことで、今後の生活に自ら対応できる力を養うことです。

昨年に引き続き、山中教授のエピソードを。IPS細胞を発見し、ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授を皆さんご存知だと思います。山中教授は、学生時代に何度もケガや骨折を繰り返していたことから、整形外科の道へ進みました。しかし、研修医時代に他の医師よりも不器用で技術に劣ることを実感します。当時、周りから「じゃまなか」と呼ばれていたエピソードは有名です。

そこで山中教授は研究者としての道を選び、偉大な功績を残しました。

山中教授は周りより少し不器用だということに自覚し、自分に合った道を選択することができたとも言えますね。

また、「ハリーポッター」シリーズで主人公ハリー役を務めたダニエル・ラドクリフさんは「発達性協調運動症」であることを公表しています。彼は「靴紐が結べない」「うまく字が書けない」など、現在も苦手さは改善できていません。学生時代はできないことが多く、とても苦しんでいたということです。

「靴紐が結べない」のであれば、「靴紐の無い靴を履く」、「書字が苦手」であれば「パソコンのノート機能を使う」などの対処もできます。これは大人の世界であれば選択しやすいのですが、学校教育の中ではまだ十分に保証できる内容ではありません。

苦手なことを繰り返し何度も練習させるより、できる範囲の課題に変更するなど配慮しながら、子どもの自尊心を大切に支援していくことが必要です。

今回は「就労自立支援」についてお話します。

えま室あな援カ担と、いみ大見とる子人今きものくら調ちと「ないはう習ど一と練足場  
てどずどりど教ウ任がまののを人逃に機どががではまたしがな、運が、言、真、い、「うなレも今文があをと「発  
いもはか相す。数、育ンの大はず。き、大に、しつ、会、も、見、は、不、た、れ、嫌、り、自、動、も、れ、に、分、症、も、れ、な、学、に、し、て、わ、刺、さ、が、足、り、な、い、か、一、思、い、っ、テ、ち、で、ハ、リ、強、誤、練、性、協、調、  
まこ、談、な、談、の、も、の、相、イ、や、ス、学、て、は、ら、こ、す、し、を、ま、か、た、け、さ、い、ま、そ、持、し、達、ど、だ、だ、て、し、性、も、だ、だ、て、い、と、い、練、子、う、こ、に、不、  
し、よ、を、第、一、に、考、え、ら、校、長、が、支、持、を、行、う、に、ま、ち、が、あ、る、と、い、う、こ、と、を、お、話、し、ま、す。